

2013年3月31日

1. 齊藤課長他のパイロット州視察

JICA アフリカ部の齊藤課長と北松職員は、ダルフールプロジェクトの終了時評価調査後に本プロジェクト及びマザーナイルプロジェクトの現状を視察するために、3月3日から4日かけてセンナール州と白ナイル州を訪問しました。この視察にはJICA スーダン事務所から加藤企画調査員が同行しました。齊藤課長はセンナール州と白ナイル州の研修センターを訪問後、コスティ市の浄水場も視察しました。浄水場では本プロジェクトの山本専門家が詳細な説明を行いました。

		
研修センターでの協議	調達された機材の説明	既存浄水場の視察

2. 機材調達

本プロジェクトの2年次においては、研修センターの建設を積極的に実施している北部州、北コルドファン州及び紅海州の3州に対して、コンピューターを主体とする研修用機材を調達することになっています。

機材は3月下旬に納入され、その直後から機材の検収作業を実施しました。また、北部州では3月24日に機材引渡式が堀江大使の臨席の下実施されることになっていたことから、この州のみを最優先した機材検収と搬送を実施しました。搬送された機材はDWSTのスタッフが現地に出向き、各種ソフトウェアの挿入と設置作業を実施しました。

		
3州向けに調達された機材	機材検収の様子	

3. 各関係機関との協議

UNOPS 主催のセミナーが3月13日に、また、UNESCO 主催のシンポジウムが3月31日に開催されました。これらのセミナーには国際機関やスーダン政府関係者が参加し、3月31日にはIOMとの2回目の会合がJICA事務所で開催され、具体的な連携の方策が協議され

ました。

これらのセミナーや協議において、JICA 専門家は、スーダンにおける従来の水分野での研修が各国際機関や NGO によって未調整のまま実施されている現状を説明した上で改善の余地があることを提案しました。今後の水分野における研修は、中央政府の研修センターである DWST を援助機関が事前に情報を共有した上で実施することがますます重要となります。



4. カッサラプロジェクトの報告会

カッサラプロジェクトの中間報告会が3月14日に財務省の会議室で開催されました。この報告会では、職業訓練分野の活動をわかり易く解説したプロモーションビデオが映写されました。このビデオはスーダンの専門業者に委託して制作されたものですが、ナレーションや映像の画質も良くプロジェクトの広報に貢献するものです。

一方で、報告会ではカッサラプロジェクトの5分野におけるプレゼンテーションが州政府のカウンターパートによって実施されました。全体的にプレゼンテーションのフォーマットが統一されており、2012年に実施された報告会よりも格段にスーダン側スタッフの技術が向上していました。



5. 北部州研修センターの開所式と機材引渡式

北部州の水公社は既存のワークショップ（作業場）を改修し、研修センターの建設を積極的に進めていました。その結果、研修センターは3月24日に完成し、この完成に合わせて開所式と機材引渡式が開催されました。この式典には在スーダン日本大使館より堀江大使、反町書記官、森 JICA スーダン事務所所長、加藤企画調査員、上村専門家と大鹿専門家の6名の日本人関係者が参加、北部州側からは公共事業大臣、保険省大臣、州水公社の関

係者が出席しました。

本プロジェクトで納入したコンピューターや修理工具等は整理整頓された状態になっており、今後北部州で本格的な研修が実施可能となりました。なお、研修センターでの式典の様子はテレビと新聞によって翌日に報道されました。



6. 北部州の水事情調査

北部州の飲料水に関しては基本的に都市部ではナイル川の水を取水し、浄水処理された後配水されています。また、村落部には数多くの井戸が建設されており、北部州の給水普及率はスーダン 17 州で最も高くなっています。ただし、既存の浄水場や取水施設及びウォーターヤードの維持管理には課題が多く見られました。

例えば、エジプトと国境を接するスーダン最北端の都市であるワディ・ハルファを調査した際に、水道料金を分析する機会を得ました。この町の水道局によれば、月当たりの平均水道収入は 100,000SDG となっています。これに対し、支出は電気料金と人件費がそれぞれ 40% となっており、維持管理費は僅か 20% です。

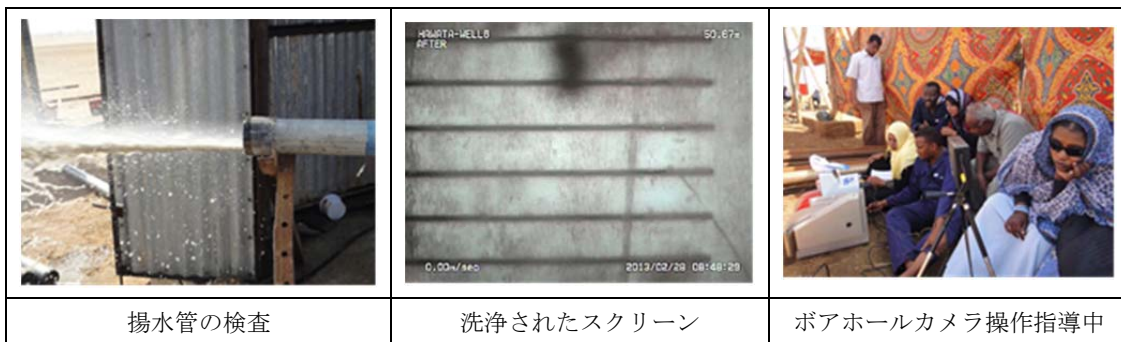
水道料金は政府の指示により 2001 年より値上げされておらず、しかも人件費もほぼ同様な状況にあります。これに対して、電気料金と部品や機材などの料金は確実に値上がりしています。



7. センナール州での井戸管理研修（大鹿専門家担当）

大鹿専門家はセンナール州で 2013 年 3 月 10 日～14 日にかけて Amarah 村の井戸（1 井）を対象に井戸管理研修を実施しました。この研修にはセンナール州水公社のエンジニア合計 9 名とダルフル 3 州のエンジニア 8 名が参加しました。この研修にダルフルプロジェクトから研修生を参加させた背景としては、彼らが日本人専門家の指導を現場で直接受けられないことにより、様々な作業をスキップする等問題を抱えていたことがあります。

また、ハワタ技術者との交流同様、研修生が現場での作業を協力しながら行うことにより、センナール州、ダルフール 3 州の技術者同士の交流が深められたことは、今後のスーダンの水セクター関係者の交流、情報交換をより推進する上で大いに効果があったと考えられます。



8. 白ナイル州での給水施設管理研修（山本専門家担当）




山本専門家は、2月20日に白ナイル州研修センターに着任後、管網管理および浄水場管理コースの研修準備を実施してきました。そして、3月10日に白ナイル州で第1回の管網管理研修を実施し、また、3月24日には同じく白ナイル州で第1回浄水場維持管理研修を実施しました。管網管理コースにおいては、スーダンで適切な都市部の地図が発行されていないことから、GPSの操作方法およびGoogle earthを利用した管網図の作成手法の指導が実施されました。



9. 白ナイル州でのコミュニティ啓発研修の準備（佐々木専門家担当）

コミュニティ啓発担当の佐々木専門家は、3月25日に白ナイル州研修センターに着任後、白ナイル州とセンナール州の研修コースのカウンターパートと今後の研修日程、内容について協議を行いました。また、両研修について、教材選定、試験作成に関して講師との打ち合わせを行い、適切な研修準備が進められていることを随時確認しました。この他、実際にコミュニティを訪問し給水施設の維持管理やその課題の調査を実施しました。

なお、コミュニティ啓発の研修は4月14日からセンナール州で、また、4月21日から白ナイル州で実施されることになっています。

		
<p>カウンターパートとの協議</p>	<p>ウォーターヤードの調査</p>	<p>発電機小屋の様子</p>

(略語説明)

IOM : International Organization for Migrant (国際移住機関)

UNOPS : United Nations Office for Project Services (国連プロジェクトサービス機関)

SDG : Sudan Pond (スーダンポンド (スーダン国の通貨単位))